

編 集 後 記

自分のことで恐縮だが、土曜・日曜を含めて毎日のように人の集まるところに出向くようになって久しい。今年は年間 200 回を越えそうな勢いである。もちろん徘徊しているわけではないが、それに近いかもしれない。数年前まで出勤回数、年間 50 回といって、見栄を張っていたが、それもまだ症状が軽いときだったと思う。お呼びがかかるたびに、金髪に 3D のサングラス、ダンボールのつけ髭、地下足袋、手甲、白ワイシャツに黒ネクタイで「Dr. ナダレンジャー」を自称し、自然災害の科学実験パフォーマンスを演じている。もちろん、お呼びの有無に関わらず、勝手に乱入することも当たり前となっている。典型的な「色物」研究者になってしまった。しかも、科学教育プログラムのキャラクターであるナダレンジャーをひたすら熱く演じているうちに、変装している自分の方が素で、変装していない自分はインチキ臭いような気もする。

私にとって、雪氷学会は遊び心に満ち溢れていて、素を出せて居心地がとても良い。会員の多くも雪氷学会にそんな雰囲気期待しているのではないだろうかと勝手に思っている。全国大会で変装して口頭発表しても、変装をして座長をしても、少なくとも表立って非難を浴びなかった。ありがたいことである。しかし、まだやっていないこともある。変装して「雪氷」に文章を書くことである。見ている人は誰もいないので、まるでナンセンスであるが、面白い気もする。

さて、雪氷編集委員としては質問箱を担当している。是非素朴な質問を寄せていただきたい。あまりにもヤラセっぽい「ナダレンジャーの正体は？」とか「ナダレンジャーって何ですか？」といった質問はいまのところない。どなたか、ご質問していただけないだろうか？

なお、この編集後記は Dr. ナダレンジャーに変身したままで書いた最初の文章である。

(編集委員：納口恭明)